特別施設

校舎や体育施設の他にも教育施設はいろいろあります。

礼拝堂

礼拝をはじめ、式事・講演等が行われます。創立まもない昭和5年、聖山の9合目に念願の礼拝堂が建てられ、昭和6年にシカゴのキンボール社から購入したパイプオルガンは、当時日本では礼拝用として最大のものでした。

現在の礼拝堂は竣工当初の姿とは異なり、基本的な外観や内観を維持しながらも、外部廊下の変更、構造補強、外壁の張り替えなど経て、平成24年5月には約半年間をかけた耐震補修工事が行われ、今日のような姿になっています。幾万人の学生・生徒・児童・教職員が祈り続けてきたところです。

講　堂

講堂は視聴覚センター棟正面にあり、ここでは有名演奏家による音楽演奏会や、学内の音楽発表会、講演会などが催されており、学生・教職員の研鑽の場となっています。

本格的演奏会場として設計された、客席数504席、フルオーケストラが演奏可能なステージを持つ音楽専用ホールです。固定反響板の設備により、約1.5秒の残響時間を得ており、2台のフルコンサートピアノ「オーストリア製ベーゼンドルファー」「ドイツ製スタインウェイ」があります。音響・照明設備も、音楽演奏会を催すのに十分な機能を持っており、3点吊りマイクによる録音や、スポットライトによる舞台照明が可能な設備となっています。

小原記念館

創立者・小原國芳夫婦の住まいでした。小原國芳の遺志により学園に寄贈され、現在は賓客をお迎えする場となっています。

小原國芳の書斎は今もそのまま保存され、新入生懇談会の折などに見学できるようになっています。

松下村塾

礼拝堂のある丘（聖山）中腹に松下村塾（しょうかそんじゅく）があります。本学の教育目標の1つである塾教育の象徴的存在として、昭和32年に通信教育の学生によって立案され、その意志を受けついだ学生達の労作によって昭和42年に建てられたものを平成24年に建てなおしました。

山口県萩市にある吉田松陰（1830～59）の私塾、松下村塾を模築したもので、クラブ活動やゼミ、座談会など教育的に意義のある会合に利用できます。

咸宜園

松下村塾の礼拝堂寄りに咸宜園（かんぎえん）があります。江戸末期の教育者広瀬淡窓（1782～1856）の私塾で、松下村塾同様、多くの有為な人材を育てました。大分県日田市に現存する咸宜園塾秋風庵の模築で昭和42年、私塾精神を学ばんとする学生有志の立案にはじまり、昭和44年の完成まで2年7カ月にわたる労作によって建てられたものを平成24年に新しく建てなおしました。松下村塾と同様に、教育的に意義のある会合に利用できます。

箱根須雲塾

総合農学研究センターの箱根自然観察林の中にあり、本部棟、男子棟、女子棟の3棟で構成されている宿泊研修施設です。昭和53年にカナディアン・シーダーハウスの施設が完成し、幼稚部から大学までの実習、研修、ゼミおよび林間学校等に利用されていました。

現在は農学部の実習および卒業研究の調査や研究の場として利用されています。

玉川学園ナナイモ校地

カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島のナナイモ市郊外に位置し、豊かな自然に囲まれた面積約32万平方メートルの施設です。農学部と地元バンクーバー・アイランド大学との共同プログラムが展開されています。さらに教育学部の野外教育演習や玉川学園8年生の体験学習プログラムが展開されるなど、玉川大学および玉川学園の海外研修プログラムの北米の拠点として、幅広く利用されています。

総合農学研究センター

生物生産実習教育の場とともに生物資源・機能開発・保護および環境・生態などを学ぶ総合教育研究フィールドです。4部門7施設からなり各学科および領域で教育・研究に利用されるほか同キャンパス内の園児、児童生徒の体験学習や野外教育の場として活用されています。

北海道　弟子屈農場

北海道東部の弟子屈町に位置し、面積約77万m^2の施設です。資源循環型教育・研究施設を目指し、他の畜種よりも環境負荷が少ないダチョウの飼育や肉牛の生産を行っています。生物資源学科および生物環境システム学科の環境実習教育の場として利用するだけでなく、放牧利用による低コスト肉牛生産技術の確立、野生動・植物の生態調査などの研究が行われています。

北方系森林科学研究フィールド

北海道東部、弟子屈町の阿寒国立公園の屈斜路湖畔に隣接して、面積約49万m^{2}で森林科学部門・森林生態系研究施設の研究フィールドです。トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ、グイマツなどの北方系の樹種が植林されています。同フィールドは生物資源学科および生物環境システム学科の実習教育の場として利用されています。また、北方系樹木見本園やミズナラ、シラカンバ学術参考林を設け北方系森林の生態に関する研究が行われています。このほか針広混交林の生態調査など卒業研究の調査研究の場として利用されています。

箱根自然観察林

富士箱根国立公園の箱根に位置し、面積は110万m^{2}のフィールドを有しています。標高差が500mあり暖帯から温帯性の気候に属しているため、生態系の変化に富んでいます。自然環境教育の場として、植物観察や実験・演習などが展開されているほか、生物資源学科、生物環境システム学科の自然教育の場や生涯学習の場として幅広く利用されています。

応用動物生産研究施設

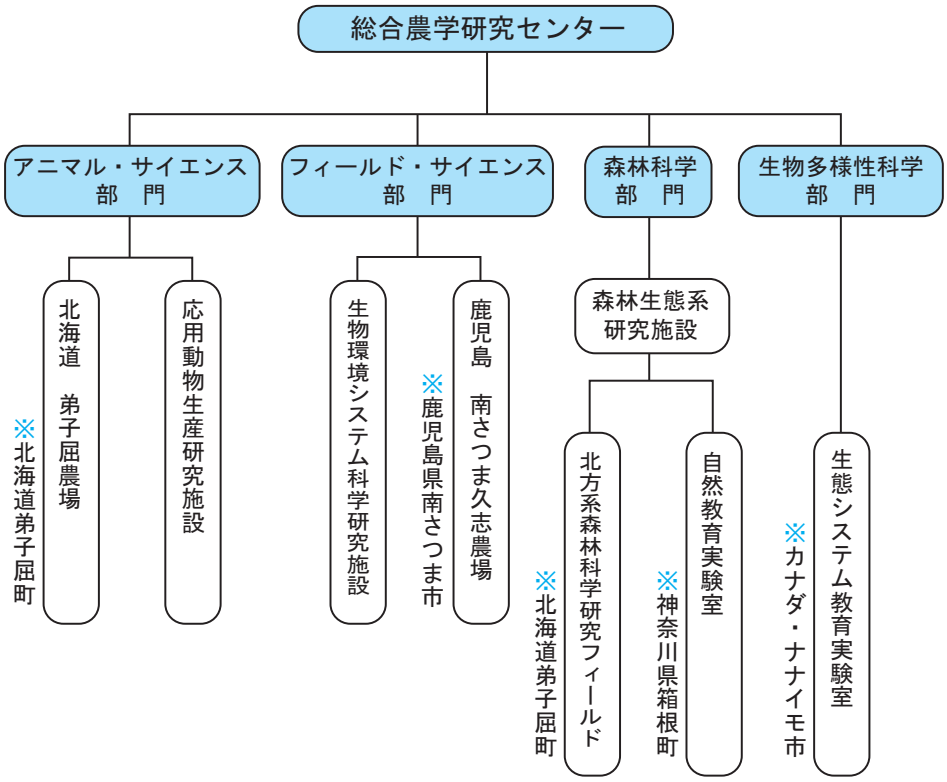
本学キャンパス内の同施設では、ヤギの中型家畜を飼育し、教育研究活動を展開しています。ヤギは里山環境保全やアニマルセラピー研究の対象動物として利用されています。生物環境システム学科の体験教育の場として利用するとともに、園児や生徒の野外教育の場として幅広く活用されています。

生物環境システム科学研究施設

本学キャンパス内の同施設は、生物資源学科および生物環境システム学科の基礎的な実習教育をはじめ、農学部3学科の専門研究、卒業研究の場として活用されています。また、総合農学研究センターの拠点として、各施設の連絡や調整を行っています。

鹿児島　南さつま久志農場

鹿児島県薩摩半島の最南西端南さつま市坊津町に位置するフィールド・サイエンス部門の施設です。無霜地帯の同施設では、熱帯・亜熱帯原産の植物の機能開発を目的として露地やハウスで試験栽培を行っています。現在、ポンカンを中心とした多様なカンキツ類の適性試験やマンゴーやパッションフルーツなど熱帯植物の特性を調査しています。同施設は生物資源学科および生物環境システム学科の実習教育の場として利用されています。このほか照葉樹林帯の生態調査や東シナ海における海浜生物の調査研究の場としても利用されています。

生態システム教育実験室

カナダ・ナナイモ校地に生物多様性科学部門の附属施設として、生態システム教育実験室がありナナイモ校地で行われる様々な調査・研究に利用されています。